

平成17年度 CSI 事業成果報告書

筑波大学附属図書館

(1) つくばリポジトリの公開

筑波大学は、学術機関リポジトリとして「つくばリポジトリ」を構築し、平成18年3月23日に1万件以上のデータを公開した。

つくばリポジトリを構築するにあたっては、初期データとして平成9年度に導入した電子図書館システムで蓄積されてきた学内研究成果を活用することとした。電子図書館システムは、当初から基本コンセプトを「本学で収集・生産・蓄積された学術的価値の高い資料の原文を電子化し全世界に向けて発信する」とし、学内研究成果の収集・電子化とインターネットでの発信への取組みを開始していたためである。具体的には、博士学位論文、科研費等による各種研究報告、紀要論文を収録対象とした。

構築を主として担当したのは、ワーキンググループとして図書館職員によって編成されたリポジトリ班（4名）であったが、電子図書館担当グループ（4名）と常に共同で活動した。さらに、平成17年度に発足した附属図書館研究開発室とは、技術的問題等について、連携して取組んだ。作業内容としては、全体計画の立案、ハードウェアの整備、ソフトウェアのインストール、構築支援システムの開発、電子図書館システムからのデータ移行、移行データへのメタデータの追加、新規データの作成が主なものである。

ソフトウェアはフリーウェアである **Dspace** を使用した。電子図書館システムからつくばリポジトリに移行したデータは、著作権等の権利処理を終了してすでに公開している博士学位論文の全文または著者による要旨約1,000件、科研費や学内プロジェクトの研究報告約600件、紀要論文約4,500件である。電子図書館システムでは図書目録に準じた書誌情報でデータを管理していたため、移行データの内容を確認後、**Creator**（作成者）、**Description**（内容記述）、**Publisher**（公開者）、**Date**（日付）の各メタデータについて、新規作成及び記述内容の追加や修正作業を実施した。なお、これらメタデータの追加作業については、外注で行った。

電子図書館システムから移行したデータ以外に、学内合意の下に筑波大学発足から平成15年度までに学位を授与された約5,600件の博士学位論文すべてについて、「論文の要旨及び審査の要旨」を新規に電子化して追加した。これにより、つくばリポジトリでは、本学で学位を授与した博士学位論文について、「全文」、または「著者による要旨」、または学位論文審査委員会による「論文の要旨及び審査の要旨」のうち1種類以上を提供できることとなった。

つくばリポジトリは、公開時点において収録論文数において国内最大級のものとなっている。今後は、学術雑誌掲載論文をはじめとする多様なコンテンツに収録範囲を拡大し、より充実した内容としていくこととしたい。

(2) 本学関連の学術情報資源の調査

公開当初の収録コンテンツの種類は、博士学位論文、研究報告、紀要論文に限定されているが、平成 17 年度においても収録範囲を拡大するための準備作業に着手した。その一環として、学内の研究者が生産した学術情報資源について、さまざまな手段により調査・収集を行った。電子化が終了しているものについては、来年度メタデータを作成した上で、収録する予定である。

- i) 博士学位論文については、電子図書館システムの主要コンテンツとして、学位取得者に対して登録依頼を行ってきたが、登録率はあまり高いものではなかった。このため、学内の合意を得て、全ての博士学位論文について「論文の要旨及び審査の要旨」を電子化し収録するとともに、全文データの追加登録を図った。その方法としては、まず本学で学位を取得した学内教員について調査し、未登録の教員に登録依頼をすることとした。調査の結果、本学で学位を取得している学内教員は約 340 名おり、このうち 200 名が未登録であった。依頼するにあたり、協力を得やすいように、承諾書の書式を簡易化し、あらかじめ必要事項を印字済の承諾書を用意して、サインだけして返送できるようにし、新規に作成した学位論文登録啓蒙パンフレットを添えて個別に送付した。最終的に 100 名の教員から承諾書の送付があったが、著作権等の権利処理が必要なものについては見送ったため、今年度はこのうち 84 件を電子化した。

さらに、筑波大学・東京教育大学で学位を取得した本学教員以外の者についても、目録データベースの中から学位論文リストを作成し、各種名簿等により調査を行った。調査結果に基づき、18 年度以降に依頼を行う予定である。

- ii) 紀要論文についても、すでに収録している紀要類でバックナンバー等に未収録のものがあるものと、ILL 等で利用率の高いものとの 2 種類について、編集委員会等に収録許可を求めるなどの作業を行い、約 3,000 件のデータを電子化できた。
- iii) 学内 Web 上の情報資源について調査し、登録対象資源およそ 1,800 件について学内向けサーバに蓄積した。学内にあるサーバに置かれている学術情報については、検索エンジンを使って調査し、一時的に学内専用のサーバに蓄積した上で公開の可否を各研究者に決定してもらう方式をとることとした。今年度は調査と蓄積までを行い、来年度許可をとることとなる。
- iv) 雑誌記事索引や Web of Science により、本学教員が発表した雑誌論文のリストを作成し、各雑誌のリポジトリ登録ポリシーについて調査を行った。来年度以降各研究者につくばリポジトリへの掲載を依頼していくこととなる。

(3) 学術機関リポジトリに関する総合的な調査・研究開発・評価

先行機関についての情報収集を目的として、海外機関の視察、シンポジウムへの参加等を行った。海外視察では 2006 年 1～2 月にオーストラリアで開催された **OpenRepositories2006** に参加した。これに合わせてオーストラリアの機関リポジトリの現状を調査するため、モナシュ大学、クィーンズランド工科大学、オーストラリア国立大学、オーストラリア国立図書館、オーストラリア国立公文書館の 5 機関を訪問した。また、国内では「機関リポジトリ：学術コミュニケーション機能回復の新たな方向を探る」をテーマに開催された国立大学図書館協会のシンポジウム（東地区）において、会場館として進行・記録を担当するとともに、事例報告を行った。

大学名	国立大学法人筑波大学
名称	つくばリポジトリ
使用ソフトウェア	Dspace
公開 URL	https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/
公開日	平成 18 年 3 月 23 日
収載コンテンツ(18.3.31 現在)	11122 件
学術雑誌論文	
学位論文	6056 件(全文 965 件、要旨 5091 件)
紀要論文	4515 件
会議発表論文	
会議発表用資料	
ブック	
テクニカルレポート	
研究報告書	551 件
一般雑誌記事	
プレプリント	
教材	
シラバス類	
参考資料	
データ・データベース	
ソフトウェア	
その他	
問合せ窓口	筑波大学附属図書館情報管理課電子図書館係 tulips-r@tulips.tsukuba.ac.jp